

# 唐丹の歴史いろいろ(一)

三陸町吉浜

木村正継



平成十五年六月九日、「唐丹の歴史を語る会」が発足しました。

第一回勉強会は、私の話唐丹の歴史を知る為の資料として、「検断角屋敷久助 覚蝶・文化・文政・天保の記録」の唐丹関連部分を紹介しました。

ついで陸前高田市の県文化財に指定されている吉田家文書について紹介しました。

ただし、この文書は毛筆の草書体の古文書を活字化しただけの「解説書」で読むためには、多少の勉強(勉強程度)と慣れが必要で、(最後に、詳しく解説します)。

第二回勉強会は、唐丹の生んだ学者で伊能忠敬の

## 唐丹の歴史を語る会発足

顕彰のため江戸時代唯一の顕彰碑・星座石等を建立した葛西昌丕の研究者、東北大学大学院教授を平成十五年三月退官した田村眞一博士の葛西昌丕と天文学についての講演。

第三回目的勉強会は、葛西昌丕関連と津波関係を中心に町内現地研修会。

第四回目的勉強会は、私

の今後の勉強希望や会員相互のお話として・市社会教育課の森さんの遺跡発掘関連のお話。

第五回目は、津波研究者で鶴住居地区公民館長の上飯坂哲(さとし)先生の津波関連の講演。

先生は、大石小学校に勤務されたこともあり、昭和八年唐丹尋常小学校発行の津波の記録や同様な記録を

入吉田家文書」です。

しかし、その解説は、非常に困難とされ、各種団体によって百十八年分の内約二十年分の解説書が出版されているに過ぎません。

平成十五年三月「頭書」内容が推定できる位に一行から四行位に書かれている目次のような文書」第一集(寛延三年〜五十年分)が発刊、平成十六年一月に第

興味のある方は、陸前高田市立図書館(電話〇一九二・五四・三二二七)にお申し込みください。

もう一種類の本は「検断角屋敷久助覚蝶」大肝入吉田宇右衛門に請われて気仙の色々な村の役職を勤めた久助翁が十四歳から亡くなる年の七十六歳までの出来事を記録したもので、内容は、半官半民多種多項目にわたって二千六十九項目が記載されています。

NHK学園講座古文書講師の渡辺兼雄先生の解説で難しい解説分が誰でも読めるように表現されている。

こちらは、平成六年に千部発刊されたもので、現在百部位の在庫はあるはずで

価格五千円、申し込みは共和印刷・電話は〇一九二・二七・二〇三六にお問い合わせ下さい。

その他の資料については後日、盛巖寺のホームページで閲覧出来るようにしたいと思います。

復刻するなど御活躍中で勉強会の資料として唐丹分の復刻資料の配布もありません。

ここで、少し触れた唐丹の歴史を知る為の資料等を紹介したいと思います。

最も記載が多く、直接的な資料は、平成七年四月に岩手県有形文化財(古文書)に指定された「気仙郡大肝